

なかふ
久志検水窪・中甫洞穴が鹿児島県指定史跡に!

なかふ
中甫洞穴は、久志検水窪に所在する洞穴で、洞穴の開口部分と窪地内に遺跡が形成されています。地権者の原 佑造氏によると、洞穴及びその周辺については昔から大切な場所であったと言われています。洞穴内からは、研究者の間で注目されている縄文時代早期の「爪形文土器」や、南九州との関連性が考えられる「轟式土器」などが発見されました。そ

他にも、石斧・叩き石などの石器、イノシシの牙で作られた牙製垂飾、当時の人々が食べていたと考えられる獣骨類や貝類などが多く見つかっています。3度にわたる調査成果によって、洞穴を利用した人々の当時の生活が分かったこと、奄美群島の考古学研究において極めて重要であるため、今回、鹿児島県指定史跡になりました。

●遺跡名の由来は?.....

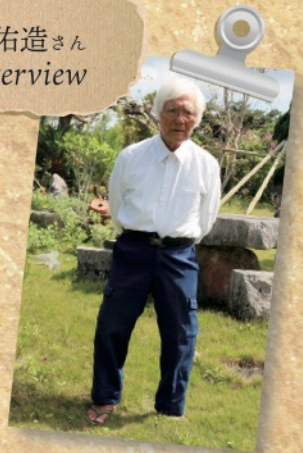
通常、発見された遺跡は、その土地の小字名をとって遺跡名がつけられます。発掘調査が行われていた当時、地権者の原 正亮氏が、幼少期から尊敬していた祖父・原 中甫氏の名を後世に残したいことから「中甫」の名をとり命名されました。

●県指定になって思うことは?.....

中甫洞穴へは標識案内などが少ないので、現地へ行くまでに相当な時間がかかって大変だと思います。また、耕作地

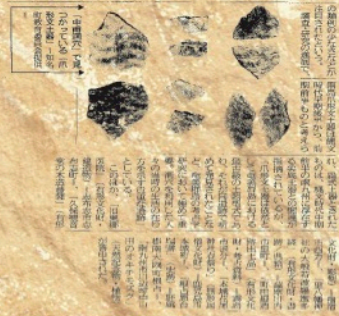
と隣接しているところは崖状になっているので、今後は、見学者の安全面や利便性も考慮しながら遺跡の整備・活用をおこなってほしいです。

原佑造さん
Interview



県保護審
奄美群島
奄美考古学研究で極めて重要

奄美群島「奄美考古学研究で極めて重要」
奄美群島は、縄文時代早期の「爪形文土器」や、南九州との関連性が考えられる「轟式土器」などが発見された。この発見は、奄美群島の縄文時代早期の生活様式や、南九州との文化交流の一端を窺うことが期待されている。また、洞穴を利用した人々の当時の生活が分かったこと、奄美群島の考古学研究において極めて重要であるため、今回、鹿児島県指定史跡になりました。



3月22日「奄美新聞」



中甫洞穴県指定史跡へ
県文化財保護審議会が答申
知名町、活用の広がり期待

3月23日「南海日日新聞」



ふるさと納税で

くり舟を3隻導入しました!



ふるさとまちづくり基金(ふるさと納税)を活用し、ふるさと夏まつり・くり舟競走大会などに使用するくり舟を3隻導入しました。

今年のくり舟競走大会はニュータイプで行われます! どのチームが優勝の栄誉を手にするのでしょうか! また、今年の大島地区大会に向けて、いち早くカヌー連盟が初漕ぎを行っております。

知名町ふるさとまちづくり基金概要(ふるさと納税)

▶平成29年度ふるさとまちづくり基金申込状況(平成30年3月末現在)

	収納済件数	収納済金額(円)	都道府県別申込件数ベスト3
県内	11	570,000	1位 東京:38件
県外	191	10,861,000	2位 神奈川:25件
計	202	11,431,000	3位 大阪:22件

▶申込者(納税者)と本町との関わりについて

	出身者もしくは親族が出身	以前住んでいた	旅行等で好印象を受けた	その他	計
件数	82	8	25	87	202
金額(円)	9,864,000	137,000	340,000	1,090,000	11,431,000